令和6年度第1回バリアフリー吹田市民会議 議事録

日 時:令和6年12月19日(木曜日)午前10時から正午まで

場 所:吹田市立総合福祉会館2階第3会議室

出席者:【バリアフリー吹田市民会議委員】

栗田委員、山根委員、福西委員、波那本委員、大江委員、西岡委員、船木委員、
渡部委員(欠席)近藤委員

【説明部署】

(1)(2)(道路室)石坪参事、浅井主幹、眞鍋主査、山家主査、安田主任

(3)(公園みどり室)尾崎参事、神田主幹、筒井主査

【事務局】

(障がい福祉室)吉村室長、村尾参事、山田主幹、星野主任

会議次第:1 開会

委員・市職員紹介

2 案件説明・討論

(1)市道山田佐井寺岸部線道路改良工事について

(2)高浜橋耐震補強及び補修工事について

(3)公園に整備するトイレの仕様について

【(1)市道山田佐井寺岸部線道路改良工事】

委員:

道路の青色部分(自転車用通路)は車の通りがあり怖いので、改良された歩道を自転車を通るといふ案はいかがですか。

担当所管(道路室):

自転車は車道を走ると法律で決まっているため、車道を利用させていただきたいと思っています。

高齢者や子供などについては、自転車で歩道を通行することができますが、歩道は歩行者が優先です。

委員:

この道路は全て無電柱化していくということでしょうか。

担当所管(道路室):

この路線では、無電柱化を行い、有効となる幅員を確保するという事はいたしません。今回の

工事では、道路歩道の幅員自体は変えずに、現状ある低木の植栽帯を撤去することにより、大部分の歩道の有効幅員を広げ、通れるところを広くするという工事でございます。

委員：

高木もありますが残しますか。

担当所管（道路室）：

高木に関しては、地元住民の方から残してほしいという意見もいただいているので残します。低木が連なっている植栽帯は撤去予定です。全体として見ると、広くなる場所が多くなるというイメージです。

今ほとんどが 1メートルぐらいの幅で低木が植えられています。低木をなくすことで、利用できる部分を増やすというイメージです。緑もやはり大事ですので、全ての木をなくすということではなく、部分的には、今の木々を残す形で考えております。

委員：

その大きな樹木を残しているということは、道路にあるその木の根が盛り上がっている箇所をなくして、フラットになるということでしょうか。

担当所管（道路室）：

根が上がっているところ（根上がり）に関しては、根も含めてできるだけ勾配が緩やかになるように舗装整備を行う予定です。

委員：

2点お尋ねします。

1点目は、今回、点字シート・点字ブロックが敷設されるということをお示しいただいていますが、点字シートの敷設場所は、例えばその歩道の中央部分、車道側から何メートルなどの規制が決まっているのでしょうか。自転車のタイヤが点字ブロックに挟まって少し危ない場面を見かけたことがあり、また車椅子ユーザーにとっては、点字ブロックの敷設の場所によっては、逆に通行が難しいケースもあるかなと思っています。

2点目は、この道路に私有地が隣接していると思うのですが、私有地との高さの勾配の調整について何か具体的なプランとかがあれば教えてください。

担当所管（道路室）：

1点目の視覚障がい者誘導用ブロックの設置位置に関しては、道路の移動等円滑化整備ガイドライン等に「私有地と道路との境界（官民境界）から約 60cm程度離す」という記載があり、基本的には今回もそのように整備させていただきたいと思っております。

2点目の私有地との歩道の高さについては、植栽帯を撤去した後にどれほど調整できるのかを現在設計中のため、現段階ではお答えするのが難しいです。

委員：

ここは民家がかかり隣接している道路かと思います。今も民家から車道に出るために歩道が途切れているところが割と小刻みにあったかと思いましたので、質問をさせていただきました。難しいとは思いますが、どうぞよろしくお願いします。

委員：

点字ブロックですが、最低基準の「壁から60cm」で点字ブロックを通してしまうと、どうしても道沿いの植栽や放置自転車が障害物になったりして点字ブロックを塞ぐということがあるので、できれば道路の中央に通して、できるだけまっすぐの点字ブロックを作るというような形にしたいです。

また、2.5m程の歩道幅があれば、真ん中に点字ブロックを通すと右側通行、左側通行ということが分かりやすくできるのではないかと提案します。

担当所管（道路室）：

その点も含めまして、各々の設定を検討させていただきます。

【(2) 高浜橋耐震補強及び補修工事】

委員：

案1と案2をどちらも採用し、2つの点字シートを付けるということはどうでしょうか。

担当所管（道路室）：

どちらかの設置で考えております。

委員：

バルコニー部分には手すりが付いていますか。

担当所管（道路室）：

付きます。

委員：

歩道の舗装の打ち替えについて、元々のタイルは滑りやすいため、滑りにくいものにしますか。

担当所管（道路室）：

アスファルト舗装と同等以上の滑りにくさ、抵抗値を持った補装に変える予定です。

委員：

道路の形が太鼓状になっているということなのですが、改善できないですか。

担当所管（道路室）：

縦断勾配は最大で 10%程度あります。道路であれば比較的容易に改善できますが、橋梁では高さを変えることは難しいです。

委員：

少し勾配がきついように思います。できるだけフラットにできないのでしょうか。

担当所管（道路室）：

橋の構造上、なかなかフラットにするのは難しいというところです。

委員：

舗装の厚さを変えることで、勾配を緩くできないですか。

担当所管（道路室）：

すごくよい案だと思うのですが、橋の上なので、現状の舗装厚さも薄く、舗装で厚さを調整するには限界があります。

委員：

少しでも緩やかにできるような形を考えていただきたいと思います。

委員：

先ほどの点字ブロックの件ですが、今後の予定として視覚障がい者の団体に聞き取りをされる予定ですか。

担当所管（道路室）：

視覚障がい者の方の意見もお伺いした上で、トータル的に決定したいと思っています。

委員：

点字ブロックをまっすぐに敷いてもらえると、車椅子もその点字ブロックを線路みたいな感じで跨いで通ることができます。道案内としてはまっすぐの方が適切ではないかと思っています。

担当所管（道路室）：

この1メートルの幅の中でまっすぐ通した方がよいのではないかという御意見ですか。

委員：

そうです。

担当所管（道路室）：

まっすぐに設置すると、車道側に近くなってしまうことが懸念されます。車道側に近くなることが怖いと感じられる方もいますし、車が歩道に乗り上げることもあり得るので、車道から離れた方がよいと考えています。

委員：

強度の高いおしゃれな柵なのでしょうか。

担当所管（道路室）：

一般的な横断防止柵です。

委員：

視覚障がい者の方々からヒアリングされる機会をぜひ持っていただけたらと思います。

担当所管（道路室）：

障がい福祉室とも相談させていただいて、視覚障がい者の方からも御意見をいただきたいと思っています。

委員：

滑りにくい舗装というのは、いくつか案を示していただくか、他で実施されているものなどあれば知りたいです。

担当所管（道路室）：

一般的なアスファルトの透水性舗装以上に滑り抵抗性を持ったものというのは考えております。材料的なものもありますし、黒い舗装をした上に塗装するというか、滑り抵抗がざらざらとした、景観や色も含めたうえで滑りにくいようなものは、たくさん種類があります。

委員：

雨上がりなど滑りやすいと感じるところはあるので、ぜひ滑りにくい舗装をとり入れて、検討いただけたらありがたいです。

【(3)公園に整備するトイレの仕様】

委員：

標準化ということで、このトイレの形が、今後の吹田市内の公園トイレの形になっていくのですか。

担当所管(公園みどり室)：

はい、基本的にこの様式のトイレで更新していく予定です。

委員：

バリアフリートイレですが、図面によると「回転径が約150cm以上」いうことになっていますが、150cmのトイレができ上がるということでしょうか。

担当所管(公園みどり室)：

図面にあるように、150cm以上の基準に対して、現況160cmとれるような設計にする予定です。

委員：

大型の車椅子等が多いので、できれば180cmが最低かと考えています。

担当所管(公園みどり室)：

新たな基準では180cm以上が望ましいというのも聞いていますので、今後仕様の見直しの際に検討していきます。

委員：

回転径が2mぐらいになるように、できるだけ広くできるような設計を出してほしいと思っています。

また、ベッドがなく、ベビーシートになっているのですが、ベッドは付けられていないのですか。

担当所管(公園みどり室)：

今のところはそうです。基準では、建築物が1万㎡以上でベッド、公衆便所で50㎡以上ならベビーシートと、少し大きな作りの建築物や公衆便所の場合に設置が義務付けられているものになるので、今のところ公園のトイレでの設置予定はありません。

委員：

こういうトイレでは、本当に多くの方や、障がい者もベッドを必要とします。トイレにベッドを必要

とされる方は多いです。トイレに座れないのでベッドでおむつ交換をされる方がいるので、ベッドを設置できるぐらいの幅は作っていただきたいと思います。そうでなければ、公園に遊びに行ける状況ではないです。昔のトイレのように、地べたにシートを敷いて寝転んでおむつ交換をしなければならぬというような状況になってしまうので、快適なトイレを作るのであれば、ベッドを必要とする人たちにとっても快適な環境を作っていただきたいと思います。

担当所管(公園みどり室)：

基準に対して可能な限り大きい作りのものを設計していますが、回転半径が180cmや200cmにできるように、構造自体を大きくすれば、そういうベッドを置けるようなスペースもできるかと思っておりますので、大きさと合わせて仕様の見直しの際に検討していきます。

委員：

ベビーシートは、男性・女性トイレそれぞれのスペースにつけることは難しいのでしょうか。この大きさのトイレだと、子供連れて入ったら、結局、バリアフリートイレを利用しないといけないということになると思います。他の施設ですが、健常者の方がバリアフリートイレをたまたま使っていて、障がい者の方にすごく怒られたことがありました。やっぱり障がい者の方はトイレがどこにあるかというのを色々考えた上で外出先も考えている。それがすぐトイレを使えないというのは、私たちにとってすごく死活問題だと言われたことがありました。子育て世代にはベビーシートは必要なかと思っています。そのあたりはいかがでしょうか。

担当所管(公園みどり室)：

過年度のバリアフリー吹田市民会議の資料を見させていただき、そのような御意見をいただいていたことは存じ上げております。移動等円滑化基準でいくと、先ほどお伝えした50㎡以上の公衆トイレには義務づけられているのですが、それ以外は設置が望ましいということですので、男性トイレ、女性トイレの大きさもありますし、子育て世代がよく使う公園なのか等、公園ごとの使い分けが必要かなと思いますので、今後検討させていただきます。

委員：

案内板にはトイレ表記だけが載っているのでしょうか。

担当所管(公園みどり室)：

バリアフリーのガイドラインに特定公園施設が定められており、今回の公園でいうと、水飲み場や休憩施設を表示しなければならないとなっています。トイレと合わせて、他の特定公園施設でも表示します。

委員：

図面にあるバリアフリールートには点字ブロックがありますか。また一定の勾配が確保できて、車椅子で移動できるということでしょうか。

担当所管（公園みどり室）：

おっしゃるとおりです。主要な公園ごとに設定した資料がありますので御確認ください。

委員：

この資料のイメージ写真のバリアフリー化の写真の看板には、「どなたでもお使いください」となっています。バリアフリートイレに対して、誰でも使ってくださいということになっていることは正しいと思いますか。

担当所管（公園みどり室）：

バリアフリートイレに利用が集中してしまうということで、男性トイレを使う方はまずは男子トイレを使用する等、機能の使い分けや分散利用できるようにする方が望ましいということはお聞きしています。しかし、今のトイレの機能上、男性トイレは小便器だけしかつけていないということがありますので、男性で大便器を使われる方は、バリアフリートイレを使ってもらわないといけないため、今は「どなたでもご自由にお使いください」という表記となっています。

委員：

障がい者にとってトイレがすぐに利用できないことや、誰かが入っていたら利用できないということになってしまいます。障がい者の方が用を催したりすると、すぐに用を足さなければ漏れてしまうということがあります。待ってられないということがあります。そのためにも、一般の方は使わないでくださいという要望があります。「どなたでもご自由にお使いください」という「誰でもトイレ」という考えは止めていただきたいです。

担当所管（公園みどり室）：

どのような表記が一番望ましいと思いますか。

委員：

「必要な方にとってのトイレなので、一般のトイレでできる方は一般のトイレをご利用ください」というのはどうでしょうか。

担当所管（公園みどり室）：

ありがとうございます。

委員：

今後の工事について、更新予定はホームページで公開するなど、どなたでも見られるような形になるのでしょうか。

担当所管（公園みどり室）：

ホームページでは公表していませんが、老朽化した古いトイレや、足元が見えるような古いトイレ等に優先順位をつけて、2か所から3か所のペースでの更新を予定しています。

委員：

具体的に何年度にどこの公園のトイレを整備するという予定が出ていなくても、生活圏とか普段利用されている公園で、かなり老朽化したトイレがある公園を御利用の方にとっては、先の見通しを広くお示しただけならありがたいです。

委員：

バリアフリートイレを作る際に、その周りの歩道も一緒にきれいに舗装されたりすることがあるのでしょうか。

担当所管（公園みどり室）：

トイレの整備に合わせて公園内のルートはバリアフリーの整備をさせていただくのですが、外の道路部分については、所管が別になりますので働きかけはしていきたいと思っています。

委員：

バリアフリートイレのドアは手動式でしょうか。全て自動ではないのですか。

担当所管（公園みどり室）：

自動にしてほしいという御意見も過年度にいただいているのですが、トイレが屋外設備で24時間どなたでも使ってもらえるようなトイレになりますので、手動にさせていただく予定です。自動にすると、やはり電気設備を伴うため、費用がかかることはもちろんなのですが、メンテナンスの点において、何かあって電気が止まった時に、トイレ自体が使えないということになってしまうため、すぐに駆けつけて修理できるように手動のドアにする予定です。指定管理者がいる公園ならば可能かもしれませんが、一般的な街区公園では、何かあって使用できない状況になるよりも、使用できる状況が確保できる方がよいと考えています。動かしやすいように、軽い扉を設置予定です。

委員：

手動の引き戸にすると、どうしても使いにくい、ストッパーが効かないというようなことがあるので、しっかりとメンテナンスし、ドアを開けたらすぐに軽い力で戻ってくるというようにしていただき

たいと思います。あと、親子連れの障がいの方がトイレに入ったときに、子供が勝手に鍵を開けてしまうことがありますので、鍵は上下二つ、上の方にもつけていただきたいです。

委員：

トイレの清掃でお水を使った際にも、床面が乾きやすく、滑りにくい素材の選定をお願いしたいと思います。

委員：

バリアフリートイレの形について、視覚障がい者の方にお聞きすると、例えば手すりの場所がトイレによって違っていたり、決まったところがない等で困ったという話を聞いたことがあります。手すりや電気が便器に対してどこにあるかということがきちんと考慮されているのかをお聞きしたいです。

担当所管（公園みどり室）：

手すりについては、洋式便座に座ったときに何cmという基準がありますので、幅も高さも基本的にはどのトイレも同じ形状で整備する予定です。